



あたらしくはいった本 令和8年8月 貸出開始資料から

●小説・エッセイなどの文学 はじまりのスープ、夏ゼリー(瀬尾まいこ/著) 永遠の記憶(東野圭吾/著) おにがわらう(畠中恵/著) アクリル(井上荒野/著) 夜がまだ明けない(井上先斗/著) ノー・ファンタジー(上田岳弘/著) 鋼鉄のレガシー(堂場瞬一/著) 乱菊物語(谷崎潤一郎/著) 殺し屋の出世術(野宮有/著) 劇場の子イーディス・ハラー 上下(エドワード・ケアリー/著) ローマ物語(ジュンパ・ラヒリ/著)

●その他の本 なぜ、あの人の話は最後まで聞きたくなるのか? (内尾紀彦/著) 新・血液型おもしろ読本(能見正比古・能見俊賢/著) 筋トレ解剖図鑑(坂詰真二/著) 長生きのど習慣(西山耕一郎・熊井良彦/著) 街並みで読み解くヨーロッパ(加賀美雅弘/著) 買わない生活(稲垣えみ子/著) ジャンクジャーナルのはじめ方(島本彩子/監修) ヤバい日本の住所(河合太郎/著) 外国語っぽい日本語辞典(米川明彦/編著)



瀬尾まいこ / 著
『はじまりのスープ、夏ゼリー』
(新潮社刊)



内尾紀彦 / 著
『なぜ、あの人の話は最後まで聞きたくなるのか?』
(主婦と生活社)



能見正比古・能見俊賢 / 著
『新・血液型おもしろ読本』
(鳥影社)

10月としょかんカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

○印の日は、お休みです。

太宰府の文華と公文書館だより 150

十返舎一九の天満宮案内

ページID: 7241

(吉田重房)が著した『筑紫紀行』の本文をほぼ引き写していることがわかりました。

文政6(1823)年、江戸の書肆、山口屋・岩戸屋から、十返舎一九作『菅神御一代文章』が出版されました。一九といえば『東海道中膝栗毛』を始めとする膝栗毛シリーズが大当たりした、江戸時代後期を代表する人気作者です。『菅神御一代文章』は、タイトルの菅原道真公の伝記を下段に、「筑前国太宰府天神宮境内之記」という太宰府天満宮の名所案内を上段に配した二本立てスタイルです。これは当時流行した往来物というジャンルで、寺子屋などで教材として使われるほか、読み物としても楽しまれました。一九のほか、山東京伝、式亭三馬、曲亭馬琴など人気の作者たちが、往来物を手がけています。

さて、天満宮の見どころを紹介した「筑前国太宰府天神宮境内之記」ですが、その記述は具体的かつ詳細で、まるで現地を見て書いたかのようです。ところが、一九が太宰府を訪れた事実はなく、とすれば、太宰府を描いた先行文献を参考にしたと考えるほかにありません。そこで『菅神御一代文章』刊行以前の紀行文を調べてみると、尾張の商人菱屋平七

かくして、太宰府に来たことのない十返舎一九による太宰府天満宮案内が世に出ることになったのでした。

太宰府市公文書館 荻野 寛美